

## 課題情報シート

課題名：	宜野座村字漢那の戦前集落模型製作		
施設名：	沖縄職業能力開発大学校		
課程名：	専門課程	訓練科名：	住居環境科
課題の区分：	総合制作実習課題	課題の形態：	製作

### 課題の制作・開発目的

#### (1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

建築史、コンピューター基礎実習、造形実習、CG 製作実習、企業実習

#### (2) 課題に取り組む推奨段階

企業実習終了後、「住居環境ゼミナール」において沖縄の民家及び集落景観の特徴を学び、設計事務所や漢那区住民とのワークショップを通して、情報を整理してから具体的模型製作を行います。

#### (3) 課題によって養成する知識、技能・技術

課題を通して、地元の文化、歴史について知り、街づくりの考え方や模型作りの知識、技能を試行錯誤しながら身に付けます。

#### (4) 課題実習の時間と人数

人数：4名

時間：324 時間

沖縄では戦争があったことと戦後の米軍支配の影響を受けて、古い戦前の集落がほとんど残っていません。また、その風景を実際に自分の目で見た古老の方々も次々と亡くなって行くという時間を迎えてしまいました。今回は、漢那区という一つの行政区が、戦前の集落模型を新設の公民館におきたいという要望から始まりました。集落模型の復元のためには、沖縄の民家や集落の特徴を学びながら、地元の古老の方から聞き取り調査が重要です。戦後64年が過ぎ去り、当時は子どもだった方々の記憶も曖昧であり、詳細な民家の復元はあきらめざるを得ませんでした。何とか集落の範囲と民家の数を確定するにも、1972年の日本復帰以降の激変は激しく、地形模型を先行作成して復帰前の集落状況の確定から入らざるを得ませんでした。それによって集落範囲を確定し、聞き取りによって集落全体の配置図を作成し、これを元にして、800分の1の小さな集落模型としました。

## 課題の成果概要

学生自身にとっても、すべてが始めてのことであり、地形模型の製作から入りました。現在と日本復帰前の地形模型を1500分の1で二つ作成しました。区民の方々にご覧いただき、その変化の大きさに大変な驚きを持って迎えられると同時に、その後の区民への行事参加や聞き取り調査へのご協力をいただく信頼を得ることができました。こうした活動を通して地域の文化の重要性に学生自身が気づき、沖縄における集落の形成過程を学び、集落の中の拝所や神アサギなどの意味を理解しました。開発の名による集落の大きな破壊にも気づき、街づくりの難しさなども十分に理解してきました。通常の課題の中では行えない、戦前の集落全体の復元のため、ものづくりに試行錯誤しながら、森や田畑を作り、街路樹を植え、藁葺き屋根や赤瓦屋根などを一つ一つ手作りしてゆきました。最終的には、設計事務所との共同製作で2m四方の集落全体模型を製作し、新設される区公民館に展示されます。地域の方々や設計事務所の方々との共同作業による物作りの体験は、設計技術の向上のみでなく、街づくりの理念に対する理解と、学生自身のアイデンティティの確立にとっても重要な機会でした。

## 課題制作・開発の訓練ポイントおよび所見

本課題は、沖縄における戦前の集落景観の把握、地元漢那区の歴史や文化の把握及び区民とのコンセンサスをはかり、設計事務所や他大学及び地元でのワークショップ能力を養います。専門的には地形模型の作製と集落模型製作技術を創意工夫できる力を付けることが目標です。

### < 沖縄の集落景観の把握 >

沖縄の民家や集落に関する文献を探して読み込むことから始めました。また、日本建築学会論文を検索し、沖縄の集落の特徴、中でも沖縄本島北部の集落の特徴を学んでいきました。教科目の中では、学べない根拠資料の検索と読み込みによって、おおよその沖縄の民家や集落の特徴を把握しました。

### < 宜野座村漢那区の現況及び歴史と文化の把握 >

宜野座村と漢那区の概況を把握するため、村誌や字誌、村要覧や、各種村の計画を読み込み、村がどのように変化しており、どのような課題を抱えているかを把握しました。これと平行して全国で進んでいるまちづくりに関する事例を学び、村の今後のあり方に付いてまで考えました。

### < 地形模型の製作技術 >

戦前模型製作に先立って1500分の1の地形模型を復帰前の地図からのものと、現在の

地図から二つ作成しました。これは、設計者としての基本的技術の習得に繋がります。現況集落調査に基づく地形模型の上に、シンボリックな住宅模型を載せていきました。

＜地元住民へのワークショップ技術＞

集落の現況調査を行い、それに基づく現況模型を製作し、地元区民に大きな地形変化を見ていただきました。区民自身が大切な史跡や水辺を失ったことに驚きを持って周知していただきました。その上で、戦前の模型製作のための聞き取り調査シートを作成し、古老の方々を訪ねたり、お集まりいただいたりして、屋敷についての具体的な大きさ・屋根材・屋敷囲いなどについて聞き取っていきました。

＜集落模型製作の創意工夫＞

戦前の地図や米軍が戦前に撮影した写真などを元に、聞き取り調査による集落の配置を図面化し、それを地形模型に載せていきました。藁葺き屋根や赤瓦屋根、屋敷囲いの樹木、田んぼや畑の表現、森作りなど、これといった見本があるわけではないので創意工夫しながらの製作となりました。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
<p>○ 学会論文の検索技術 学会のサイトによる論文検索を行いました。また、沖縄民家集落研究に関する代表的な研究書を探して読んでいきました。</p>	<p>◇ 学問レベルを確認するため、先行研究の読み込みをして、自分たちの研究レベルを決めていきます。</p>	<p>● 自分たちで文献検索からやることで、学問研究の学び方を知らしめます。</p>
<p>○ 村役場や字公民館を訪ねて、地元資料を手に入れて分析します。</p>	<p>◇ 研究対象の統計資料などを手に入れて、歴史や文化を理解すると共に、街づくりの課題を抽出します。</p>	<p>● 研究に必要な地元資料をいただいたり、コピーさせていただいたりという基本的な研究手法を身に付けます。</p>
<p>○ 地形模型の製作 年代の確定と等高線から地形模型を製作します。</p>	<p>◇ 地形の変化を見て時代を確定し、縮尺を確定の後、等高線による高低差による地形模型をつくります。</p>	<p>● 設計実習では平坦な土地に家を建てることしかやっていますが、実際の街や住宅は、高低差のある土地に建ちます。現実的に理解させる</p>

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
<p>○ 地元現況調査とワークショップ</p> <p>○ 戦前集落模型の製作            古老の方から戦前集落の状況を聞き取り、図面化して行き、その上に戦前集落を再現します。</p>	<p>◇ 地形の上にシンボリックな住宅を配置し、集落の大まかな変化を把握します。それを、区民にも見ていただいて、変化の大きさや重大さを伝え、どのような街づくりをしてゆきたいかワークショップを通してお互いに考えます。</p> <p>◇ まず始めに古老の方からの聞き取りを行います。聞き取るためのリストと調査すべき事項を調査シートにして、アポイントを取ってから行きます。            それを配置図に落とししていきます。家や樹木畑などを一つ一つ手作りし、地形模型上へ載せていきます。ある程度できたものを古老の方々に見ていただき修正を加えます。</p>	<p>知識と技術を身に付けさせます。</p> <p>● 自分たちの調べたこと、感じたことを区民に返し、話し合うことによって、今後の課題解決へのヒントを得ます。開発業者とは違う、街づくりへの問題提起を行いあえる信頼関係を構築します。</p> <p>● 古老の方の語る屋号・坪・間など、昔の状況を身に付けなければなりません。            材料をいろいろと試行錯誤しながら、最もそれらしく見えるものを発見していきます。</p>

### <所見>

自らの住んでいる地域への歴史的・文化的理解を深める努力をさせることが重要です。そのためには地域へ入って諸行事にも参加し、区民との信頼関係を打ち立てていきます。技術的な面は、設計者にも直接お聞きしながら学んでゆくという姿勢で臨みます。ある程度、まとまった段階で、情報を常に住民へ返し、ワークショップを繰り返しながら中身のあるものに仕上げていきます。単なる模型製作ではなく、学術的研究努力と、住民とのコンセンサスの取り方なども学ばせて、最後は模型の完成と論文本論のまとめもしっかりと行わせます。

## 課題に関する問い合わせ先

**施設名** : 沖縄職業能力開発大学校  
**住 所** : 〒904-2141  
沖縄県沖縄市池原 2994-2  
**電話番号** : 098-934-4806  
**施設 Web アドレス** : [http://www.ehdo.go.jp/okinawa/index\\_pid\\_28.html](http://www.ehdo.go.jp/okinawa/index_pid_28.html)